

福井県
あわら市の石仏①
旧金津町の石仏

資料作成：滝本やすし(石川県金沢市)



熊坂路傍 十王など

細呂木小学校区

- 01 滝 白山神社／不動明王
- 02 滝 雨請堂／不動三尊、八大龍王
- 03 滝 庚申堂／青面金剛、地藏
- 04 滝 路傍／太子堂
- 05 沢 春日神社／狛犬、庚申石祠[青面金剛]
- 06 指中 路傍／太子堂
- 07 指中 川口城址／阿弥陀三尊種子板碑
- 08 樋山 樋山神社／稻荷神石祠[稻荷神]
- 09 細呂木 旧北国街道路傍／加越国境名号塔、よしさきみち道標
- 10 吉崎 旧吉崎道路傍／一字一石墳、地藏、聖徳太子
- 11 吉崎 岩崎観音／如意輪観音、釈迦如来、兒文殊、兒普賢、船玉宮
- 12 坂口 路傍／弘法大師
- 13 柿原 多賀谷左近三経墓所／石廟、宝篋印塔、五輪塔、六地藏
- 14 青ノ木 金峰神社／蔵王宮石祠[女神像]

金津小学校区

- 15 清王 金峰神社／神明神社石祠[雨宝童子]
- 16 山十楽 白山堂／本殿石祠[白山三所権現]
- 17 山十楽 神明宮／本殿石祠[雨宝童子]
- 18 山十楽 路傍／地藏
- 19 花乃杜5丁目 千束一里塚／弥勒菩薩
- 20 花乃杜2丁目 坂ノ下観音堂／名号塔、題目塔、地藏、不動
- 21 春宮2丁目 河濯神社／狛犬
- 22 大溝1丁目 溝江館跡／一石五輪塔群、題目塔
- 23 稻越 八幡神社／誉田別尊(応神天皇)

伊井小学校区

- 24 伊井 真宗大谷派応蓮寺／太子堂
- 25 伊井 白山神社／狛犬、神明神社石祠[雨宝童子]
- 26 桑原 八幡神社／太子堂(再建)[聖徳太子]、阿弥陀如来、観音、男神像
- 27 桑原 路傍／水天
- 28 古屋石塚 春日神社／毘沙門天、十一面観音、不動明王、薬師如来、天満天神
- 29 矢地 八坂神社／太子堂

金津東小学校区

- 30 宇根 畝畦寺跡／西国三十三ヶ所観音、泰澄大師、烏枢沙摩明王
- 31 下金屋 庚申堂／地藏
- 32 熊坂 路傍／太子堂
- 33 熊坂 路傍／十王、司命、奪衣婆、半跏地藏
- 34 中川 路傍／毘沙門天
- 35 中川 加茂神社／白山神社石祠
- 36 前谷 路傍／名号塔(光導書)
- 37 櫛 八幡神社／櫛古墳[磨崖種子群]、多層塔
- 38 東山 神明神社／半跏地藏
- 39 後山 春日神社／白山妙理権現
- 40 清滝 路傍／善光寺式阿弥陀三尊

01 滝 白山神社／不動明王

白山神社の拝殿から左手に進むと木造の小堂が建てられており、舟光背型の不動明王立像が納められている。厚肉彫りで表情豊かに彫られ、背面に「享保十六辛亥歳（1731）／奉寄進不動明王所願成就／六月廿一日」と刻まれている。

白山神社の不動明王



02 滝 雨請堂／不動三尊、八大龍王

集落はずれの小高い山の頂上に、白山神社の摂社（境外堂）である雨請堂が建てられている。登り口の案内板に、次のように書かれている。（一部省略）

この雨請堂は、丸岡城主有馬藩の時代に旱魃で稲が枯れそうになったので、滝をはじめ近村の百姓が、この山を雨請山と称えて青柴の千把焚きをして煙をあげ、太鼓を打ち鳴らして龍王の眠りを目覚まし、神職と共に祈りをしたところ、三日目に小雨があり、七日目に大雨が降って、その年は大豊作になった。それからこの山を雨請山と称して八大龍王を祀り、六月十七日を祭日としている。

雨請堂は三間四面の木造で、内部には石造の雨請の神様が祀られている。中央に不動三尊が祀られ、その左右に八大龍王を配している。不動三尊は一石一尊の浮彫りであり、八大龍王は一石に二尊ずつが浮彫りされている。また、堂内の右端に不動明王像が立てかけられているが、昭和23年の福井地震で倒壊したのであろうか、台座や光背などが破損している。現在中央に建てられている不動明王は、この像を新しく作りなおされたものである。石材はいずれも福井市で産出される笏谷石である。像高は、不動明王が約80cm、不動両脇侍が約60cm、八大龍王が約35cmである。八大龍王は小型の像であるが、極めて細密に彫られており、石工の技量の高さがうかがえる。朱と墨の2色で彩色されているのだが、長い年月で色あせている。もとは白山神社の境内に祀られていたが、集落はずれの宮山に堂を建て移されたそうである。

堂の内壁に「昭和拾四年／八月貳拾参日午后／雨乞初め當邑」の墨書きがあるので、その時に堂が再建されたものと思われる。この堂は昭和23年の福井地震による倒壊を免れたようである。以前は右から「滝雨乞堂」と書かれていたが、現在は左から「滝雨請堂」と書かれている。

八大龍王の石像は向かって右から、沙伽羅龍王と和修吉龍王、摩那斯龍王と優鉢羅龍王、徳叉迦龍王と阿那婆達多龍王、難陀龍王と跋難陀龍王の順に並べられている。これらの並び順は特に意識されていないのであろうか、堂が再建された際に順番が入れ変わったのかもしれない。それぞれの像容は次のとおりである。

- ・沙伽羅龍王 焰髮。宝冠。背後から頭上に龍。左手に鼓を、右手に棒を持つ。右足を上げて波の上に立つ。
- ・和修吉龍王 焰髮。宝冠。背後から左肩上に龍。両手を前で組み、波の上に立つ。
- ・摩那斯龍王 焰髮。宝冠。憤怒相。左手で宝珠を高く掲げ、右腕で薪を担ぐ。右足を上げ、波の上の龍を踏みつけて立つ。
- ・優鉢羅龍王 宝冠。背後から頭上に龍。胸上に置いた左手で青蓮華を持ち、波の上に立つ。
- ・徳叉迦龍王 焰髮。宝冠。背後から頭上に龍。口から気を吐き、波の上に立つ。
- ・阿那婆達多龍王 宝冠。背後から頭上に龍。左手で五重塔を持ち、それを右手で支える。波の上に浮かべた蓮片に立つ。
- ・難陀龍王 宝冠。顎髭。背後から頭上に龍。両手で宝盆を持ち、波の上に立つ。
- ・跋難陀龍王 宝冠。背後から頭上に龍。両手で三弁宝珠(火焰宝珠)を持ち、波の上に立つ。

沙伽羅龍王が鼓と棒を持っており、摩那斯龍王が薪を担いでいるのは、雨乞いの時に太鼓を打ち鳴らして薪を焚くからであろうか。本来は人々が雨乞いを行い、龍王の目を覚まさせるのであるが、ここでは龍王にそれらを持たせている。

優鉢羅龍王は青蓮華を生ずる池に住むということ、青蓮華を手を持っている。阿耨達池の中の五柱堂に住む阿那婆達多龍王は、五柱堂ではなく五重塔を持っている。また難陀龍王は両手で宝盆を持っているのだが、その上には何が載せられているのかわからない。

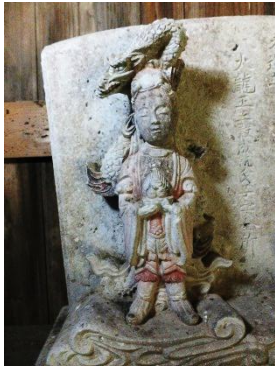
八大龍王は表情豊かで非常に躍動的に彫られている。摩那斯龍王などは憤怒相で右足を上げ、蔵王権現を思わせる姿である。

八大龍王が彫られた4基の石板の前面中央に「奉造立／八大龍王五穀成就氏子安全所」と刻まれ、裏面には「越前坂井郡瀧村／惣氏子中／敬白／享保十二丁未年(1727)／仲秋吉日」と瀧の石屋(石工)2名や施主などの人名が刻まれている。八大龍王が彫られた4基は、いずれもほぼ同じ銘文である。また不動の脇侍の裏面にも享保12年の銘があるので、これらの石像も同時に作られたものである。



雨請堂内の石像

雨請祭りは毎年6月17日に行われている。雨請の神様の前に、献上酒、塩、水、野菜、御神酒、洗米、鏡餅、するめ、昆布、果物が供えられる。金津神社の齋藤宮司によって大祓詞と雨請の祝詞が述べられる。その後参拝者が順番に玉串を捧げ、神事終了後は参拝者に御神酒がふるまわれる。以前は太鼓をたたいて賑やかな祭りだったそうであるが、現在では太鼓をたたく人がおらず静かな雨請祭りとなっている。



跋難陀龍王



難陀龍王



阿那婆達多龍王



徳叉迦龍王



優鉢羅龍王



摩那斯龍王



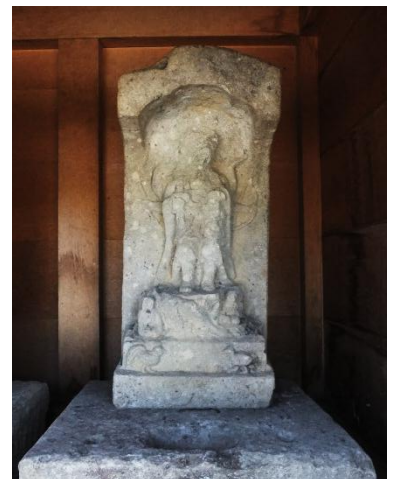
和修吉龍王



沙伽羅龍王

03 滝 庚申堂／青面金剛、地藏

雨請堂への登り口近くの路傍に、木造の小堂が建てられている。白山神社の摂社(境外堂)の庚申堂で、1面4臂の青面金剛立像と両手で念珠を持つ地藏立像が納められている。いずれも笏谷石に浮彫りされており、本体形状が同じであることから、ほぼ同時に作られたものと思われる。地藏は比較的状态良好であるが、青面金剛は剥落が激しい。青面金剛は、剣、輪宝、矢、弓を持ち、岩座に立っている。足元には2猿と2鶏が彫られている。



青面金剛

04 滝 路傍／太子堂

滝の太子堂は、明治25年(1892)5月建立、明治38年(1905)5月再建、昭和23年再々建、平成15年10月修復。昭和23年再々建とあるのは、福井地震によって倒壊したのを建て直したものである。

初層前面に扉があり、内部に聖徳太子の木像が安置されている。基壇に「細呂木村宮谷／石工神尾乙吉」の銘があり、他に多くの人名が刻まれている。



滝太子堂

05 沢 春日神社／狛犬、庚申石祠[青面金剛]

春日神社拝殿内に、笏谷石製の1対の狛犬が置かれている。高さ50cmほどで、阿形の台座右側面に永正12年(1515)の銘が刻まれている。在銘の越前狛犬として最古の作例であり、県の文化財に指定されている。



狛犬阿形像



狛犬吽形像

本殿の左手に、日月の窓が彫られた石祠が建て

られている。奥壁に1面6臂の青面金剛が浮彫りされている。日輪、月輪、弓、矢、剣、索を持っている。左右には、両手で口を塞ぎ正座する猿と両手でそれぞれの耳を塞ぎ正座する猿が彫られている。

06 指中 路傍／太子堂

指中集落入り口の路傍に太子堂が建てられている。明治34年(1901)建立。熊坂の太子堂と構造がよく似ており、これら2基は他の4基と比べると細身である。龍の彫刻が美しい。基壇には多くの人名が刻まれている。



指中太子堂

07 指中 川口城址／阿弥陀三尊種子板碑

指中集落の西の外れに、川口城址がある。長く雨ざらしになっていた板碑は、近年覆い堂に納められた。上部を山型に加工し、二条線を刻み、阿弥陀三尊の種子を刻んでいる。その下には銘文が刻まれているのだが、剥落が激しく半数ほどの文字は判読できない。「■安二■」の文字が読み取れることから、応安年間の作と考えられている。

阿弥陀三尊種子板碑



08 樋山 樋山神社／稻荷神石祠[稻荷神]

樋山神社拝殿の左手に1基の石祠が建てられている。前面に宝珠形の窓が開けられており、奥壁に稻荷神が浮彫りされている。左手に鎌を持ち、右手で稲穂を担ぐ男神像である。

この石祠の左右には7体の小さな狛犬が置かれているが、古い作風のもものが2体(1対ではない)みられる。

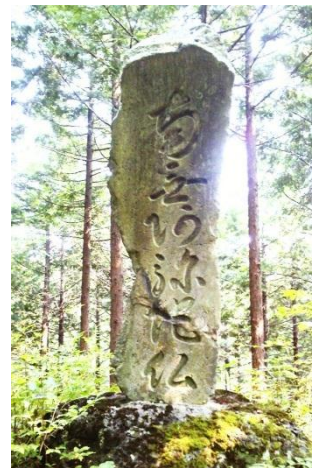
稻荷神



09 細呂木 旧北国街道路傍／加越国境名号塔、よしさきみち道標

旧北国街道を加賀市の大聖寺から南へ進むと三木町、橋町、奥谷町を通り、加越国境へと向かう。国境の手前には関所があったのだが、今はその面影もない。そのすぐ先には「加賀 越前／国境一里塚跡」の標柱が建てられている。このあたりが加越国境なのだが、未舗装の旧道なので県境の標識はない。この先がのこぎり坂である。

さらに300メートルほど南へ進むと左手に大きな石塔が見えてくる。加越国境名号塔である。高さ170cmの砂岩製で、正面に大きく「南無阿弥陀仏」と刻まれ、右側面に「坂本屋伊左エ門」、左側面には「弘化二歳(1844)三月建之」の銘が入っている。



加越国境名号塔

さらに細呂木のほうへ1kmほど進むと右手にまた次の石塔が見えてくる。このあたりは昔、茶屋が並んでいたところである。高さ140cmの砂岩製の石塔で、名号の下には花押が入っているのだが誰のものかわからない。台石の正面に「往来安全」とあるので往来安全の名号塔と呼ばれている。台石の右側面に「天保十己亥歳(1839)」とあり、左側面には石工名が刻まれているが判読困難である。

往来安全名号塔を過ぎると道は下り坂になり、細呂木の町へと向かう。細呂木集落のすぐ手前で右に分かれる道がある。蓮如が切り開いた吉崎道である。分岐点には「よしさきみち」の道標と地蔵とが建てられている。分岐点のすぐ先には深い切り通しの道が見えるが、これは後から作られた道で、蓮如が吉崎を開いた時には山越えの道だった。この道を進むと吉崎へたどり着くのだが、こちらも北国街道と同様に未舗装の道が続いている。

10 吉崎 旧吉崎道路傍／一字一石墳、地蔵、聖徳太子

吉崎道の路傍に石塔などが並んで建てられている。石塔の正面には「浄土三部妙典／一字一石墳」と刻まれており、浄土三部経の文字が小石一個ずつに書かれ、この下に埋められている。明治18年(1885)に建てられており、右側面に「布施なくて石に経文かくときハ 南無阿弥陀仏をふせに唱へよ」と刻まれている。

中央の小堂には地蔵が、右端の小堂には聖徳太子十六歳像が納められている。聖徳太子像には碑文がぎっしりと刻まれているが判読困難である。



聖徳太子十六歳像

11 吉崎 岩崎観音／如意輪観音、釈迦如来、兒文殊、兒普賢、船玉宮

御山(吉崎御坊跡)の麓の岩崎道の崖をくり抜いて、その中に8体の石仏が1体ずつ納められている。岩崎観音と呼ばれている。

岩崎観音石仏群は、石山観世音(如意輪観音)、釈迦如来、兒文殊、兒普賢、船玉宮などの石仏がみられる。

いちばん左の石窟には、近江石山寺の如意輪観音の摸刻が納められている。石工が石山寺へ行き摸写して忠実に彫ったもので、優美な姿である。手前に石柱が建てられており、「後の世を願ふ心はかるくとも 仏の誓ひおもき石山／石山観世音」と刻まれている。



石山観世音(如意輪観音)

右から2番目には、船玉宮が浮彫りされた笏谷石製の石板が納められている。船玉とは船魂であり、船の神である。唐服を着た美しい女性神で、2体の脇侍を従えて、海運を守護する。上部に「宋ノ太宗時業漁人女也／雍熙四年／九月九日昇天シ／雲中ニ聲アリテ／我ハ則／観音ノ化身普ク／海運ヲ護／セシニヨリテ／船玉宮ト／号」と刻まれている。近隣地区には船玉宮の掛軸も残されており、この地域では船乗りたちの信仰が特に厚かったことがうかがえる。



船玉宮

12 坂口 路傍／弘法大師

八幡神社の向かいの路傍に、木造の小堂が3棟建てられている。中央と右の小堂には地蔵が納められているが、左の小堂には弘法大師の座像が納められている。土を固めて作った泥像で、小ぶりであるが丁寧に作られている。

13 柿原 多賀谷左近三経墓所／石廟、宝篋印塔、五輪塔、六地藏

柿原集落外れの農地の一角に、福井藩主結城秀康の重臣である多賀谷左近三経の墓所があり、笏谷石製の石廟が建てられている。この石廟は昭和23年の福井地震の時に倒壊し、仮修復されたままであったが、あわら市によって平成29年に復元された。



石廟の内部には笏谷石製の宝篋印塔が納められており、銘文により三経の墓標であることが確認されている。また復元整備の際に骨壺が出土し、これも三経のものと確認された。石廟には銘文が刻ま



石廟



石廟内の宝篋印塔

れていないが、その手法から多賀谷左近三経が亡くなった慶長12年(1607)頃に建立されたものと考えられている。

石廟の左手前に、笏谷石製の大きな五輪塔が建てられている。地輪に刻まれている銘文により、三経の供養のために三経の子孫によって建てられたものであることがわかる。

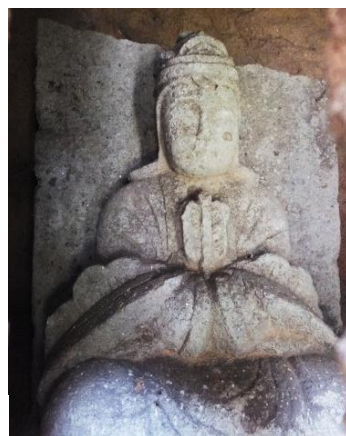
さらにその手前には木造の小堂が建てられており、笏谷石製の大きな石板に浮彫りされた六地藏立像が納められている。



六地藏

14 青ノ木 金峰神社／蔵王宮石祠[女神像]

金峰神社拝殿の左手に鳥居が建てられており、その奥に石祠が建てられている。鳥居の扁額に「蔵王」と刻まれており、石祠は蔵王宮と呼ばれている。石祠には長方形の窓が2つ開けられており、内部に女神座像が浮彫りされた石板が納められている。天衣をまとい、胸前の両手で天扇を持っている。



蔵王宮の女神像

15 清王 金峰神社／神明神社石祠[雨宝童子]

金峰神社拝殿の右手に、笏谷石製の石祠が建てられている。前面に日月の窓が開けられており、その間に「新命」と刻まれている。新命とは神明を意味するのであろう。また前面扉の左右に「元和四年(1619)／…六月…」と刻まれている。奥壁の内面に、雨宝童子立像が浮彫りされている。石祠には破損がみられるが、尊像部分は良好な状態で残されている。旧坂井郡では20体ほどの石造雨宝童子を確認しているが、最古銘のものである。



雨宝童子

16 山十楽 白山堂／本殿石祠[白山三所権現]

集落の北の外れの小高い林に登る石段があり、途中に「山十楽白山堂」と書かれた案内板が建てられている。石段を登り切った所に鳥居が建てられている。額東には「白山」と刻まれている。鳥居の奥に灯籠が一基建てられており、さらにいちばん奥に石祠が建てられている。

灯籠の竿に「白山妙理大権現御宝前／寛文二壬寅■(1662)■道■作／五月十八日 施主道念」と刻まれている。

石祠の前面扉に「キャ」や「白山」などの文字がかすかに読み取れる。奥壁内面には白山三所権現が浮彫りされている。中央に御前峰の本地仏の十一面観音、向って左に大汝峰の本地仏の阿弥陀如来、右には別山の本地仏の聖観音で、いずれも座像である。「明暦四年(1658)／六月十八日」と刻まれていることが報告されているが、現在は剥落が激しく判読困難である。



山十楽白山堂



白山三所権現

17 山十楽 神明宮／本殿石祠[雨宝童子]

集落中央の春日神社から南へ少し歩くと、右手に石段があり「神明宮」と彫られた額が掲げられた鳥居が建てられている。石段を登ってゆくと、奥に石祠と一基の灯籠が並んでいる。

石祠の手前に「神明宮」と刻まれた角型の石



山十楽神明宮

が置かれているが、もとの古い鳥居の額束であったと思われる。石祠の前面には日月の窓が開けられており、奥壁内面に雨宝童子立像が御神体として浮彫りされている。石段と鳥居は近年作り直されたものであるが、石祠と灯籠は創建当初のものと思われる。

神明宮の灯籠や石祠には銘文を確認できないが、その手法から白山堂とほぼ同時期の建立と考えられる。明治時代に各地で多くの小社が統合されてしまったが、山十楽では神明宮と白山堂が創建当初に近い状態で残されている。



雨宝童子

18 山十楽 路傍／地藏

山十楽集落の西の外れの旧国街道沿いに木造の小堂が建てられている。中央に大きな地藏、左右に小さな地藏が納められている。中央の大きな地藏は笏谷石製の舟光背型で、右手に錫杖を、左手に宝珠を持つ延命地藏である。光背の右側面に「享保五庚子年(1720)十一月吉日」と刻まれている。村人が盗賊に襲われた時、身代わりとなって刀で切られたと云われ、身代わり地藏と呼ばれている。

山十楽には4つの垣内があり、他の垣内にも同様の地藏堂が建てられている。



山十楽やのき垣内の身代わり地藏

19 花乃杜5丁目 千束一里塚／弥勒菩薩

北国街道の旧金津町千束に一里塚が残されている。一里塚はその名のとおり街道の一里(約3,9km)ごとに作られていた。しかし、往時の姿で残されている所は少なく、北陸三県合わせてもわずかに数ヶ所である。千束一里塚は街道東側の塚が壊されてしまったが、西側の塚は往時の面影をとどめている。



千束一里塚

大きな榎の下に一里塚の標柱と弥勒菩薩、地蔵の石仏が建てられている。弥勒菩薩は凝灰岩製で高さ53cm。磨滅が激しいが、優美な姿である。台石正面に、かすかに「天保■甲午歳」の銘が読み取れるので、天保5年(1834)の造立である。

旧街道を南へ進むと、右へ下りる坂がある。この坂を下りたところに坂ノ下観音堂がある。



弥勒菩薩

20 花乃杜2丁目 坂ノ下観音堂／名号塔、題目塔、地蔵、不動

坂ノ下観音堂は北国街道金津宿の北の入り口に位置する。東本願寺の蓮如上人御影道中の立ち寄り処になっている。観音堂のとなりには大きな石塔が2基建てられている。

左の石塔は「南無妙法蓮華経」と書かれた題目塔で、文政12年(1815)の造立、裏面に日行の署名・花押が刻まれている。

また右の石塔は「南無阿弥陀仏」と書かれた名号塔で、天保12年(1841)造立の銘が刻まれている。



坂ノ下観音堂と題目塔、名号塔

坂の登り口に小堂が建てられており、地蔵が納められている。台石の正面には歌がいくつか刻まれているのだが読みづらい。台石右側面に寛政9年(1797)造立銘がみられる。

21 春宮2丁目 河濯神社／狛犬

金津神社の向かいに、瀬織津比売命を祭神とする河濯神社が建てられている。鳥居の右には「河濯神社」の標柱と常夜燈が建てられている。また鳥居の奥には2棟の祠が建てられているのだが、右手の小さな石祠はもとの祠であり、それが古くなったので新しく大きな祠が建てられた。古い祠に祀られていた河濯大権現(河童男女の抱擁像)は、新しい祠に移されている。下の病・婦人病治癒のご利益があるそうで、近くの芦原温泉の湯女や、温泉街遊郭の遊女たちによる信仰が厚

かったという。毎年7月31日夕方に、町内の方々によって河濯大権現の祭礼が行われている。

新しい木造の祠の上に、笏谷石製の狛犬が1体置かれている。脚部が欠損している吽形像である。たてがみの造形などから、古い年代のものであることがわかる。在銘最古である沢春日神社本殿の狛犬と同時期の貴重な作例である。無造作に置かれており、できれば屋内で保管していただきたいものである。



狛犬吽形像

22 大溝1丁目 溝江館跡／一石五輪塔群

大溝1丁目の住宅街の一角に溝江氏の館跡(金津城跡)があり、木造の小堂が建てられている。堂は井戸の上に建てられており、内部に多くの一石五輪塔が納められている。堂の裏手の覆い堂には、五輪塔が陽刻された大型の供養塔もみられる。また、堂の右手前には「南無妙法蓮華経法界萬霽」と刻まれた石塔が建てられている。



一石五輪塔群

23 稲越 八幡神社／誉田別尊(応神天皇)

八幡神社拝殿の右手に木造の小堂が建てられており、数体の石像が納められている。いちばん右の石像は、左手に弓、右手に矢を持ち、左膝を立てて座っている。この尊像は誉田別尊(応神天皇)であり、八幡神社のもとの御神体であったと思われる。



誉田別尊(応神天皇)

24 伊井 真宗大谷派応蓮寺／太子堂

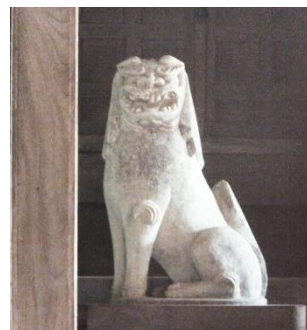
応蓮寺の境内に太子堂が建てられている。寛政12年(1800)に建立、文政6年(1822)再建、昭和23年再々建、昭和42年に道路拡張のため現在地へ移建。昭和23年の再々建は、福井地震の際に倒壊したのを建て直したのであろう。基壇には「棟梁中嶋儀右衛門」および「石工猪助」などの銘が読み取れる。毎年3回行われていた太子講は現在では年1回のみとなっている。



応蓮寺太子堂

25 伊井 白山神社／狛犬、神明神社石祠[雨宝童子]

白山神社の幣殿に、笏谷石製の1対の狛犬が置かれている。顔が真横を向いており、2体とも目を大きく見開いて表情豊かである。文化12年(1815)の銘が報告されている。



白山神社狛犬

拝殿の左手に、笏谷石製の石祠が建てられている。前面に日月の窓が彫られており、背面に「天保十二年(1841)／辛丑五月朔日立■■■」と4名の世話人の名前が刻まれている。奥壁内面に雨宝童子立像が浮彫りされているが、剥落が激しく持物がはっきりとしない。

26 桑原 八幡神社／太子堂(再建)[聖徳太子]、阿弥陀如来、観音、男神像

八幡神社の境内に建てられていた笏谷石製の太子堂は、福井地震の際に倒壊し、聖徳太子像が納められていた初層部が激しく損壊していた。昭和50年頃に聖徳太子像は地区内の専念寺に預けられ、この頃に太子講も途絶えてしまった。平成26年、同じ場所に花崗岩製の新しい堂が再建された。そして初層内部



再建前の太子堂



再建後の太子堂

には、新たに彫られた聖徳太子が納められた。聖徳太子像も花崗岩製で、両手で曲尺を持っている。

平成元年に八幡神社の社殿が再建された際に、本殿の左手に木造の小祠が建てられ、境内にあった金毘羅堂と椿堂とを合祀した。この祠の中には笏谷石製の、角型の石板が3基納められている。向って左の石板には観音立像、中央の石板には阿弥陀如来立像、右の石板には3体の男神座像が浮彫りされている。これらはいずれも石祠の奥壁であったと思われる。観音は金毘羅堂の御神体(大物主神の本地仏)、阿弥陀如来は旧八幡神社本殿石祠の御神体(誉田別尊の本地仏)と考えられるので、3体の男神は椿堂(祭神不明)の御神体であろうか。

これらの石像の手前には4体の小さな狛犬が置かれているが、大きさなどからもとは3対であったと思われる。これらの狛犬は、金毘羅堂、旧八幡神社、椿堂の手前に置かれていたのであろう。

27 桑原 路傍／水天

桑原集落東の外れの竹田川に架かる桑原橋の西詰めに木造の小堂が建てられており、10体ほどの石像が納められている。そのほとんどが丸彫りの地蔵であるが、中央の大きな1体は縦長の石板に浮彫りされた水天である。右手に剣を、左手に蛇索を持っており、石板前面の右上部に「水天九頭龍」と刻まれている。竹田川の氾濫を治めるために造立されたのであろうか、越前地方では数少ない作例である。



水天

28 古屋石塚 春日神社／毘沙門天、十一面観音、不動明王、薬師如来、天満天神

春日神社拝殿の左手に木造の境内社が建てられており、その右手にコンクリートブロック製の小堂が2棟建てられている。

境内社は天満神社だそうであるが、表記はされていない。内部には、毘沙門天立像が浮彫りされた笏谷石製の石板が御神体として祀られている。石祠の奥壁であったと思われるが、天満神社の御神体ではなく本殿に合祀された2つの白山神社のうちのどちらかの御神体であったと考えられる。高さ53cm、幅37cm。



毘沙門天

左側の小堂には4体の石像が納められている。左から、十一面観音立像、不動明王立像、薬師如来立像、男神立像である。不動明王は舟光背型で、他は角型の石板に浮彫りされている。石板に彫られた3体は石祠の奥壁だったと思われる。

左端の十一面観音は合祀されたもう一方の白山神社の御神体(伊佐奈美命の本地仏)、薬師如来は薬師神社の御神体、右端の男神は天満神社の御神体の天満自在天神であろうか。十一面観音は高さ50cm、幅30cm、薬師如来も高さ50cm、幅30cm、天満自在天神は高さ50cm、幅32cm。いずれも背面上部に「米」と刻まれている。これらの3体は、同一の石工によって同時期に作られたものであろう。



十一面観音



薬師如来



天満天神

右の小堂には、丸彫りの十一面観音立像が納められている。この十一面観音と左の小堂の不動明王の2体は本地仏として彫られたものではなさそうである。

境内社の前に1対、左側の小堂前には2対の狛犬が置かれているが、小堂前に置かれている2対のうちの左の1対は古風な作である。屋外に置かれているものとしては状態の良いものである。

29 矢地 八坂神社／太子堂

八坂神社の境内に太子堂が建てられている。明治34年(1901)建立。いくつか破損箇所がみられるが、他の5基と比べ最も保存状態が良好である。



矢地太子堂

30 宇根 畝畦寺跡／西国三十三ヶ所観音、泰澄大師、烏枢沙摩明王

宇根千坊は、平泉寺三千坊(勝山市)、豊原千坊(坂井市丸岡町)と並ぶ天台系白山信仰の修験場として栄えた。現在の畝畦寺跡は、宇根千坊から2kmほど下った場所で、廃村となった宇根集落の中に位置している。畝畦寺跡には観音堂が残されており、十一面観音(秘仏)を本尊とし、十一面観音(前立ち)、龍神、大日如来、薬師如来、文殊菩薩、不動明王、毘沙門天が安置されている。境内に六社神社の祠が建てられている。六社神社とは、明治に近隣の6社を合祀した神社である。六社神社の祭神は、天兒屋根命、豊受大神、太刀雄命、伊佐奈美尊、誉田別尊、水象波女命である。

登り口には古い鳥居の残欠があり、破損した「六社大明神」と彫られた扁額もみられる。西国三十三ヶ所観音の石像が点在する石段を登ると、右手に観音堂が見えてくる。左手に大きな石があり、上には泰澄大師の石像が建てられている。六社神社の左手前に、右手に剣を、左手に矛を持つ忿怒形の3眼2臂立像が浮彫りされている。頭部に火焰を伴う輪光が彫られている。烏枢沙摩明王であろうか。



西国第20番善峰寺千手観音



泰澄大師



烏枢沙摩明王

31 下金屋 庚申堂／地藏

下金屋地内の国道8号線沿いに、木造の小堂が建てられている。地元では庚申堂あるいは観音堂とも呼ばれているが、由来などは不明である。堂内には浮彫りの地藏立像が納められている。胸前の両手で錫杖を持っている。



下金屋庚申堂の地藏

32 熊坂 路傍／太子堂

あわら市の旧坂井郡金津町内に、太子堂あるいは太子塔と呼ばれる石塔が点在している。これらは大工等の職人の太子講によって建てられたもので、旧金津町内に6基が確認されている。しかし隣接する旧芦原町や旧丸岡町には1基もみられない。これら6基の太子堂はいずれも笏谷石製であり、寛政12年(1800)から明治36年(1903)の間に建てられている。高さが4～5メートルほどの大型の多宝塔で、屋根の垂木なども細かく彫られている。内部に木造の聖徳太子像が納められていたが、現在では他の場所に保管されている所が多い。

熊坂の太子堂は、明治36年建立。初層内部に納められていた聖徳太子像は、現在は別の場所に移され保管されている。基壇には、発起人をはじめとする多くの人名が刻まれている。毎年8月16日に太子講が行われているそうである。



熊坂太子堂

33 熊坂 路傍／十王、司命、奪衣婆、半跏地藏

熊坂大仏の向かいに木造の小堂が建てられており、笏谷石製の16体の石像(丸彫り十王座像10体、丸彫り司命半跏像1体、丸彫り奪衣婆輪王座像1体、丸彫り地藏半跏像1体、浮彫り地藏半跏像1体、丸彫り地藏座像2体)が納められている。十王は高さ28～30cm、司命は高さ29cm、奪衣婆は高さ33cmである。懸衣翁は当初から造られなかったことが考えられるが、司録と司命は一对で造られると考えられるので、司録は後に失われてしまったのであろう。丸彫りの半跏像は十王と同時期に造られたもののようである。



十王などの石像



奪衣婆

34 中川 路傍／毘沙門天

中川集落の中ほどに木造の堂が建てられており、小祠が納められている。この小祠は木造であるが、屋根が石造であり、もとは全体が石造であったと思われる。内部に光背型の毘沙門天立像が納められている。右手に宝棒を、左手に宝塔を持ち、脚下に邪鬼を踏んでいる。

町内で大火があった時に、この毘沙門天のところで鎮火したという。それ以降、火伏せの神様として信仰されている。以前は集落の北の入り口に置かれていたようで、本来は集落の北方を守護するために置かれたものと思われる。

越前地方では毘沙門天信仰が盛んだったのであろうか、他にも毘沙門天が祀られているところが多くみられる。



毘沙門天

35 中川 加茂神社／白山神社石祠

加茂神社拝殿の右手に、ずんぐりとした石祠が建てられている。この地域で一般的にみられる石祠とは異なり、加賀地方に多くみられる形状である。白山神社の石祠で、十一面観音、阿弥陀如来、聖観音、延命地蔵、合掌地蔵が納められている。延命地蔵以外は近年の作とみられる。



白山神社石祠

36 前谷 路傍／名号塔(光導書)

浄土宗松龍寺から100メートルほど離れた路傍の小堂内に、光導書の名号塔が納められている。凝灰岩(笏谷石ではない)製の大きな石塔で、正面中央に大きく「南無阿弥陀佛」と刻まれているが、光導の署名や花押は入っていない。左側面下部に「天保十三寅歳(1842)造立之」と記されており、光導行者40歳頃の造立である。



名号塔(光導書)

37 柵 八幡神社／柵古墳[磨崖種子群]、多層塔

柵の八幡神社境内に、内壁に種子が彫られた凝灰岩製の石室が残されている。あわら市郷土資料館のホームページより、柵古墳の概説を転記する。

柵古墳(石室)

柵古墳は柵区堂山腰にあります。径約30メートル、高さ5メートルの円墳で、横穴式の石室を持ちます。石室は全長5、54メートルあり、羨道、玄門、玄室(棺を納める室)からなっており、大きな凝灰岩の切り石で囲まれています。

玄室は3、17メートル×1、46メートルの広さで、高さ1、83メートルあります。天井と奥壁は凝灰岩の1枚岩で構築され、古墳時代後期の発達した構造をもちます。石棺や副葬品等については、何も伝えられていません。

なお、奥壁に梵字で阿弥陀仏の曼荼羅と五輪塔を刻み、その塔にも東方阿門仏の梵字が刻んであります。この梵字は、柵石塔が造られた頃、刻まれたものと思われます。

八幡神社向かいの墓地内に、六重の石塔が建てられている。あわら市郷土資料館のホームページより、柵石塔の概説を転記する。

柵石塔

この石塔は、以前は八幡神社の竹藪の中に、五輪塔や宝篋印塔と共に倒れたままに放置されていました。その後大正7(1918)年に、そこに小学校を移築することになったので、現在地に移されました。今は相輪と笠石を失い六重ですが、もとは七重でした。凝灰岩製の室町時代の作です。高さは4メートル、幅は1、2メートルあります。なお、この塔内の初層から和鏡一面(静波双雀文鏡)が発見されています。



柵古墳



柵古墳内壁の磨崖種子群



多層塔

38 東山 神明神社／半跏地蔵

神明神社拝殿の右手に木造の小堂が3棟建てられている。左の堂には木造の阿弥陀如来座像、中央の堂には5基の石造物、右の堂には石造の半跏地蔵が納められている。

中央の堂の5基の石造物は、両界大日種子碑、如意輪観音などを確認するが、磨滅の激しいものがほとんどで、他は判別困難である。

右の堂に納められている半跏地蔵は、顔面が剥落しており、左手の宝珠も欠落している。僧形神として彫られたものとも考えられる。



半跏地蔵

39 後山 春日神社／白山妙理権現

後山春日神社の祭神は天兒屋根命。大正3年に、伊弉册尊を祭神としている字劔ヶ嶽の白山神社を本殿に合祀している。

拝殿の右手前に、小さな木造の祠が建てられている。この祠は大正3年に字中垣地より春日神社境内へ移された白山神社で、伊弉册尊を祭神としている。祠内には、地蔵と白山妙理権現の石像が納められている。白山妙理権現は笏谷石に浮彫りされた美しい女性神の浮彫り立像で、蛇を乗せた盆を両手で持っている。字中垣地にあった白山神社の御神体である。角型の石板で、高さ53cm、幅28cm、像高34cm。もとは石祠内に置かれていたものと思われる。



白山妙理権現

40 清滝 路傍／善光寺式阿弥陀三尊

清滝集落の外れに木造の小堂が建てられており、善光寺式阿弥陀三尊が納められている。笏谷石製の舟光背型で、高さ120cm、幅70cm。台石に「弘化四丁未年(1847)四月下旬」の銘が刻まれている。



善光寺式阿弥陀三尊